

## 1. 主な論点

### ○ 第3章

#### ～まちづくりの目標と将来の姿について～

- ・総論部分に「開かれた文京区」というイメージがにじみ出るような記載があると良い。周辺区との連携について、隣接区との連携に留まらず、場合によっては世界とも連携する文京区というオープンマインドな立ち位置で考えてほしい。

### ○ 第4章

#### ～生活利便機能の配置について～

- ・中高層マンションの建替えをする時に区分所有法を運用することになるが、財産的価値だけではなく、居住環境の維持・向上という視点は、都市計画で受け止めるしかない。文京区内の近くに転居したとしても、同じような居住環境が得られるまちづくりを進めることが必要であり、文京区の中で福祉や病院、買物などの機会が満遍なく得られるような環境を作るという視点に立って、都市マスタープランの運用や見直しをする必要がある。

#### ～工場・住宅共存地への対応について～

- ・今後 10 年を見据えた時、都市計画マスタープランの中で住工混在市街地は、現状の機能を維持するのか、あるいは良い形で住宅市街地に転換するのか。
- ・住工混在市街地では、都心に近い所で働く場、仕事する場となる工場を減らさないというメッセージなのか、あるいは現在のトレンドに追随しつつも、新たな問題が生じないような、より良い住宅地に積極的に転換するのか、その意思表示を入れておくのか、ということについて考えなければいけないと思う。

#### ～土地利用方針図等の図中表記について～

- ・部門別方針図に関して、東京大学や六義園、湯島聖堂、御茶ノ水橋大学などの施設名が削除されているため、記載があった方が分かりやすいと思う。
- ・道路・交通ネットワーク方針図や景観形成の方針図にも施設名が抜けている。防災まちづくり方針図についても施設名が抜けており、例えば緊急避難場所の名称の記載がないと不便という感じがする。A3の図面についてこうした点を網羅的に検討いただきたい。

#### ～道路・交通ネットワーク図について～

- ・主要生活道路とコミュニティバスルートは地域交通上重要であり、地域別方針のまちづくり方針図にも記載するとよい。
- ・道路・交通ネットワーク方針図の主要幹線道路と生活幹線道路が、まちづくり方針図では幹線道路としてグレーでまとめられているのは、このままで良い。道路・交通ネットワーク方針図の主要生活道路が、地域別のまちづくり方針図に記載されていないので、記載すべきだという意見である。

#### ～緑と水のまちづくり方針図について～

- ・緑と水のまちづくり方針図が、現在の都市マスと比べても緑色の分量が多い感じがする。色合いを少し変えたほうがいいのではないか。

## ～事前復興の推進について～

- ・「事前復興の推進」の「事前復興に向けた取組」のうち「被災後の速やかな復興」には、事前復興や復興の事前準備について「速やかな」とならび「適切な」というキーワードも必要である。

## ○ 第5章

### ～御茶ノ水駅周辺の取り扱いについて～

- ・文京区から見ると区の端に位置するため、御茶ノ水駅周辺の記載が軽くなりがちであるが、東京や日本から見た時の御茶ノ水駅周辺は、江戸時代にできた神田川の切通しが東京を代表する景観になっており、医療施設も非常に多く立地し、長年の懸案であった御茶ノ水駅のバリアフリー化事業が進行している大変な地域である。文京区ももう少し積極的にコミットして良いと思う。
- ・湯島聖堂を根津神社や護国寺並みに取り上げてほしい。昌平饗（しょうへいこう）に結び付けて東京大学につながった歴史的な事実などについて、もう少し記載してほしい。

## ○ 第6章

### ～部門別の方針の評価・検証について～

- ・「期待値」という言葉を使っているが、達成できなくてもいいというニュアンスが強い。期待値という用語で良いかを検討してほしい。
- ・満足度は将来の目標値ではないという理解で良いか。
- ・30 ページでは期待度、201 ページでは期待値となっているが、これは同じものなのか。
- ・レーダーチャートを見ると、現状値と比べ期待値が非常に高い印象がある。10 年かからない間にこれだけ満足度が高まると素晴らしいが、どのような根拠でこれだけ期待値の値が大きくなっているのかがよく分からない。
- ・例えば土地利用の満足度について、アンケートで住民に対してどのような聞き方をしているのか分からない。また、防災まちづくりについて満足度は非常に高くなっているが、実際にハードとしての安全度が高くなければ、誤解され危険なことである。実際のハードの整備とリンクした形で質問する内容になっているのか説明してほしい。
- ・区民アンケートでは防災に関して行政に対する期待は極めて高いが、満足度は低い。公助への依存が極めて高いという一つの根拠として解釈することもでき、公助への依存を下げた自助・共助を頑張ることで満足度は高められるという解釈も可能である。防災まちづくりに関する期待度を目標にすると、公助への依存度を高めてしまう結果となるので、分野によっては取扱に注意すべきだ。
- ・201 ページのグラフは人によって見方が変わり、かえって混乱しないかという気がする。将来のまちづくりに対する期待度や現況の評価を載せることが、都市マスタープラン上そこまで大事なことか考えたほうが良い。

### ～「文京区都市マスタープラン改定データ集（仮称）」について～

- ・「①デジタル技術とデータの活用による情報共有等の推進」の「文京区都市マスタープラン改定データ集（仮称）」の作成にあたって活用するデータとして、人の視点も必要ではないか。地域別方針でまとめている人口データも活用できればさらに利用しやすいと思う。

### ～モニタリング指標について～

- ・脱炭素の話がかなり盛り込まれ、都市マスタープランの見直しという点で、他の行政体より充実している感じがする。その観点からすると、「脱炭素社会への対応」のモニタリング指標として「文京区の二酸化炭素の排出量」しか記載されていないが、脱炭素化に向けた住宅やオフィスなどの都市計画的視点の方針が記載されているため、それについてのモニタリングが別途必要に感じる。

### ～協働によるまちづくりのための相談窓口について～

- ・「協働によるまちづくりの推進」について、実際にまちづくりを行っているとなると最も困るのが、どこに相談に行ってもいいかわからないということである。先進的な自治体ではワンストップサービスに努めているので、文京区もそうしたシステムができればよいと希望している。物理的にワンストップにするのは確かに難しいので、相談の手引きのようなものがあれば、やる気がある人であれば、うまく動けるようになると思う。
- ・まちづくりを住民に説明する際、公助のみに目線が行かないように、自助・共助の世界でまちはできているということを暗に示すような説明が必要だ。区民が評論家になってしまうことは極力避けたいと思う。

### ～オープンハウス型説明会について～

- ・パブリックコメントやパネル展示は、意見が出るのを待つということであり、何も意見がでなかったらそれまでとなる。意見が出てくるまでにハードルがあるため、どういった人がどういった視点で意見を出したかなど、個人情報に触れない範囲で様々なデータを取ったほうが良い。
- ・葛飾区では、どのようなイメージで区が考えているかを示すビデオをつくって説明をしている。オープンハウスの場所も、大型のショッピングセンターで行うなど、できる限り目に触れるような努力をしている。

## 2. 主なご意見と区の考え

ご意見			区の考え
1	第3章	まちづくりの目標と将来の姿について	<p>○総論部分に「開かれた文京区」というイメージがにじみ出るような記載があると良い。周辺区との連携について、隣接区との連携に留まらず、場合によっては世界とも連携する文京区というオープンマインドな立ち位置で考えてほしい。(福富委員)</p> <p>○3章の「3-1 まちづくりの目標と将来の姿」の「(2)将来の姿 ③ 快適で活力のある持続可能なまち」の目標像について、「拠点を中心に憩い、にぎわい、多くの人が訪れ、交流が広がる活力あるまち」を「拠点を中心に憩い、にぎわい、<u>国内外から</u>多くの人が訪れ、交流が広がる活力あるまち」に修正しました。</p>
2	第4章	生活利便機能の配置について	<p>○中高層マンションの建替えをする時に区分所有法を運用することになるが、財産的価値だけではなく、居住環境の維持・向上という視点は、都市計画で受け止めるしかない。文京区内の近くに転居したとしても、同じような居住環境が得られるまちづくりを進めることが必要であり、文京区の中で福祉や病院、買物などの機会が満遍なく得られるような環境を作るという視点に立って、都市マスタープランの運用や見直しをする必要がある。(西浦委員)</p> <p>○3章の「3-2 まちの将来構造」の「(1) 将来都市構造」において、幹線道路沿道を「都市軸」や「生活軸」と位置づけ、最寄りの住民等の生活利便機能や道路と一体となった骨格的な景観・防災機能を形成」することとしています。</p>
3	第4章	工場・住宅共存地への対応について	<p>○今後10年を見据えた時、都市計画マスタープランの中で住工混在市街地は、現状の機能を維持するのか、あるいは良い形で住宅市街地に転換するのか。</p> <p>○住工混在市街地では、都心に近い所で働く場、仕事する場となる工場を減らさないというメッセージなのか、あるいは現在のトレンドに追随しつつも、新たな問題が生じないような、より良い住宅地に積極的に転換するのか、その意思表示を入れておくのか、ということについて考えなければいけないと思う。(加藤委員)</p> <p>○4章の「4-1 土地利用方針」「(2) 土地利用に関する基本方針」の1) 土地利用の配置方針において、「工場・住宅共存地」の方向性を『工場や業務機能を維持し、時代に対応した産業基盤を形成します。』を、『工場や業務機能を維持し、<u>産業構造の変化やデジタル化への対応など</u>、時代に対応した産業基盤を形成します。』に修正しました。また、合わせて地域別まちづくり方針図の表現を修正しました。</p>
4	第4章	土地利用方針図等の図中表記について	<p>○部門別方針図に関して、東京大学や六義園、湯島聖堂、御茶ノ水橋大学などの施設名が削除されているため、記載があった方が分かりやすいと思う。(新井委員)</p> <p>○道路・交通ネットワーク方針図や景観形成の方針図にも施設名が抜けている。防災まちづくり方針図についても施設名が抜けており、例えば緊急避難場所の名称の記載がないと不便という感じがする。A3の図面についてこうした点を網羅的に検討いただきたい。(新井委員)</p> <p>○すべての部門別の方針図に施設名を記載すると情報が多くなり混乱するため、緑と水のまちづくり方針図における公園・庭園等の名称の記載、防災まちづくり方針図における緊急避難場所の名称の記載など必要に応じた表記にしました。</p> <p>○地域別のまちづくり方針図においては、関連する施設名等を記載しております。</p>
5	第4章	道路・交通ネットワーク図について	<p>○主要生活道路とコミュニティバスルートは地域交通上重要であり、地域別方針のまちづくり方針図にも記載するとよい。(村山委員)</p> <p>○道路・交通ネットワーク方針図の主要幹線道路と生活幹線道路が、まちづくり方針図では幹線道路としてグレーでまとめられているのは、このままで良い。道路・交通ネットワーク方針図の主要生活道路が、地域別のまちづくり方針図に記載されていないので、記載すべきだという意見である。(村山委員)</p> <p>○ご指摘を踏まえ、道路・交通ネットワーク方針図に記載している主要幹線道路、生活幹線道路、主要生活道路については、地域別のまちづくり方針図にも記載するよう修正しました。</p>
6	第4章	緑と水のまちづくり方針図について	<p>○緑と水のまちづくり方針図が、現在の都市マスと比べても緑色の分量が多い感じがする。色合いを少し変えたほうがいいのか。(村木会長)</p> <p>○ご指摘を踏まえ、緑と水のまちづくり方針図を修正しました。</p>

ご意見			区の考え	
7	第4章	事前復興の推進について	<p>○「事前復興の推進」の「事前復興に向けた取組」のうち「被災後の速やかな復興」には、事前復興や復興の事前準備について「速やかな」と並び「適切な」というキーワードも必要である。(加藤委員)</p>	<p>○4章の「4-6 防災まちづくり方針」「(2) 防災まちづくり方針」の4) 事前復興の推進について、『被災後の速やかな復興に向け、平時から被災後のあるべき姿と復興に向けた体制や手順の検討を進めていきます。』を『被災後の<b>適切かつ</b>速やかな復興に向け、平時から被災後のあるべき姿と復興に向けた体制や手順の検討を進めていきます。』に修正しました。</p>
8	第5章	御茶ノ水駅周辺の取り扱いについて	<p>○文京区から見ると区の端に位置するため、御茶ノ水駅周辺の記載が軽くなりがちであるが、東京や日本から見た時の御茶ノ水駅周辺は、江戸時代にできた神田川の切通しが東京を代表する景観になっており、医療施設も非常に多く立地し、長年の懸案であった御茶ノ水駅のバリアフリー化事業が進行している大変な地域である。文京区ももう少し積極的にコミットして良いと思う。</p> <p>○湯島聖堂を根津神社や護国寺並みに取り上げてほしい。昌平齋（しょうへいこう）に結び付いて東京大学につながった歴史的な事実などについて、もう少し記載してほしい。(福富委員)</p>	<p>○3章の「3-2 まちの将来構造」の「(1) 将来都市構造」において、御茶ノ水駅周辺は、多様な高次都市機能施設が集積し、国内外から多くの人が集まる「都市交流ゾーン」の一角となる都市拠点に位置付け、『みどりある空間の維持と両立した、大学や病院の機能向上とともに、それらと結びついたスタートアップ企業や先端産業等が集積した業務地、通う人や住む人にとって魅力ある商業地の形成を誘導します。また、地域に開かれた大学や病院と、道路及び沿道の整備・活用との連携により、居心地の良い公共空間のネットワークを形成することで、大学・病院と地域の結びつきを高め、国内外から訪れる人や区民の回遊や交流を創出します。』と方向付けています。</p> <p>○5章の「5-1 都心地域」の「(3) 地区のまちづくり」において、御茶ノ水駅周辺のまちづくりの方針を記載しており、駅舎のバリアフリーや駅前広場の整備に関しても記載しています。</p> <p>○湯島聖堂については、1章の「1-1 文京区の概況」の「(3) 文京区の文化 ②江戸に起源を持つ文教のまち」の中で、昌平坂学問所の開設に関して記載しており、5章の「5-1 都心地域」の「(3) 地区のまちづくり」において、湯島聖堂など歴史的な資源の保全・活用について記載しています。</p>

ご意見			区の考え
9	第6章	部門別の方針の評価・検証について	<p>○「期待値」という言葉を使っているが、達成できなくてもいいというニュアンスが強い。期待値という用語で良いかを検討してほしい。(谷口委員)</p> <p>○満足度は将来の目標値ではないという理解で良いか。(谷口委員)</p> <p>○30 ページでは期待度、201 ページでは期待値となっているが、これは同じものなのか。(谷口委員)</p> <p>○レーダーチャートを見ると、現状値と比べ期待値が非常に高い印象がある。10年かからない間にこれだけ満足度が高まると素晴らしいが、どのような根拠でこれだけ期待値の値が大きくなっているのかがよく分からない。(谷口委員)</p> <p>○例えば土地利用の満足度について、アンケートで住民に対してどのような聞き方をしているのか分からない。また、防災まちづくりについて満足度は非常に高くなっているが、実際にハードとしての安全度が高くなければ、誤解され危険なことである。実際のハードの整備とリンクした形で質問する内容になっているのか説明してほしい。(谷口委員)</p> <p>○区民アンケートでは防災に関して行政に対する期待は極めて高いが、満足度は低い。公助への依存が極めて高いという一つの根拠として解釈することもでき、公助への依存を下げて自助・共助を頑張ることで満足度は高められるという解釈も可能である。防災まちづくりに関する期待度を目標にすると、公助への依存度を高めてしまう結果となるので、分野によっては取扱に注意すべきだ。(加藤委員)</p> <p>○201 ページのグラフは人によって見方が変わり、かえって混乱しないかという気がする。将来のまちづくりに対する期待度や現況の評価を載せることが、都市マスタープラン上そこまで大事なことか考えたほうが良い。(村木会長)</p>
10	第6章	「文京区都市マスタープラン改定データ集(仮称)」について	<p>○「①デジタル技術とデータの活用による情報共有等の推進」の「文京区都市計画白書(仮称)」の作成にあたって活用するデータとして、人の視点も必要ではないか。地域別方針でまとめている人口データも活用できればさらに利用しやすいと思う。(一針委員)</p>
11	第6章	モニタリング指標について	<p>○脱炭素の話がかなり盛り込まれ、都市マスタープランの見直しという点で、他の行政体より充実している感じがする。その観点からすると、「脱炭素社会への対応」のモニタリング指標として「文京区の二酸化炭素の排出量」しか記載されていないが、脱炭素化に向けた住宅やオフィスなどの都市計画的視点の方針が記載されているため、それについてのモニタリングが別途必要に感じる。(村木会長)</p>

ご意見			区の考え	
12	第6章	協働によるまちづくりのための相談窓口について	○「協働によるまちづくりの推進」について、実際にまちづくりを行っている最も困るのが、どこに相談に行っていかが分からないということである。先進的な自治体ではワンストップサービスに努めているので、文京区もそうしたシステムができればよいと希望している。物理的にワンストップにするのは確かに難しいので、相談の手引きのようなものがあれば、やる気がある人であれば、うまく動けるようになると思う。(福富委員)	○6章の「6-2 持続的なまちづくりのための推進方策」(1)協働によるまちづくりの推進」の「① 区民等が主体のまちづくりの推進」について、『…このことから、区は、まちづくりに関する情報の提供に努めます。…』を『…このことから、区は、まちづくりに関する相談窓口を明確にし、区民にわかりやすい情報提供に努めます。…』に修正しました。
13			○まちづくりを住民に説明する際、公助のみに視線が行かないように、自助・共助の世界でまちはできているということを暗に示すような説明が必要だ。区民が評論家になってしまうことは極力避けたいと思う。(福富委員)	
14		オープンハウス型説明会について	○パブリックコメントやパネル展示は、意見が出るのを待つということであり、何も意見がでなかったらそれまでとなる。意見が出てくるまでにハードルがあるため、どういった人がどういった視点で意見を出したかなど、個人情報に触れない範囲で様々なデータを取ったほうが良い。(西浦委員)	○オープンハウス型説明会はシビックセンターで開催し、来場者に区職員やコンサルタントが様子を見ながら声をかけ、説明をし、意見をいただくような対話型で実施しました。 ○周知については、小中学生向けの簡易版説明用動画を作成し、「10年後の文京区をどのようなまちにしたいのか」や「動画を見た感想」を求める意見募集を学校で利用するタブレット上で見られるようにし、合わせて説明会の案内を行いました。 ○オープンハウス型説明会に先行して、1週間程度、区役所地下2階でパネルを展示し、オープンハウス型説明会の周知を行いました。 また、オープンハウス型説明会に併せて、素案の説明動画を作成し、ホームページや説明会会場で流しました。
15			○葛飾区では、どのようなイメージで区が考えているかを示すビデオをつくって説明をしている。オープンハウスの場所も、大型のショッピングセンターで行うなど、できる限り目に触れるような努力をしている。(加藤委員)	